

雲南産種モミ全量を エコ温湯消毒出荷を

県内各地に供給される種モミの約8割が雲南JA管内で生産され、その内、半分以上が吉田町内で生産されています。
エコ農産物とは慣行栽培の5割以下の農薬・化学肥料で生産された物を通常言います。

「特別栽培米千石コシヒカリ」の場合、農薬基準規制の成分回数が10P以内とされ、使用する種モミは「無消毒種子を用い温湯消毒や微生物農薬を紛衣する」と限定されています。現在、温湯消毒設備が市内に整備されておらず、他町に依頼している状況です。安全安心に対する消費者ニーズが高まる中、優良種モミの生産拠点の責任として**全量無消毒種モミ**として出荷できる連続温湯消毒設備を市内に早急に整備されたい旨の要請をしました。市長答弁「エコ米を推進する上で温湯消毒は有効な手段」。近隣ではJAやすぎで実施されています。設備費は約一千万円。通常の管理経費が嵩むのが難点とか。エコ米は今後「当たり前」となりつつあります。生産者にも無消毒モミを使用したいという要望に強いものがあります。関係機関連携では非とも早期導入を願いたいと思いません。地域農業を守るために。

清嵐荘の改築来年二月 実施計画に計上市長表明

当施設は昭和三七年、木次町・吉田村組合で整備。途中でレストラン、浴室の改築が行われていますが母屋は50年経過しています。収容人員74名、温泉付き大型宿泊施設また地域の拠点として大きな役割を果たしてきました。

この度実施された耐震診断でコンクリート強度も著しく低下。補強程度では効果が期待できない状況になっていきます。そのため来年2月策定の実施計画に改築計画を計上することが市長の施政方針で表明されました。そこに市内飲食業・旅館ホテル生活衛生同業組合から「国民宿舎清嵐荘の改築整備の中止を求め陳情書」が提出されました。公的資金で改築し、お祝い・法要・レストラン・宿泊施設など民間業者と競合し民業を圧迫している



昭和37年建設以来、地域の拠点として守り続けてきた清嵐荘。歴史文化に相応しい施設整備を。

として清嵐荘の改築計画を全面断念・中止することを求める。．．と云うものです。50年の歴史の中、地域の活性化に大きな役割を果たしてきた施設です。出雲風土記に記された名湯・漆仁の湯を守り、観光客誘致で関係店と共存できる道を示していただきたい。

深野 城山 登山道 地元有志で整備

「城山はどこから登るの？」田井小学校の校歌にも歌われた城山。子供たちの期待に応えて登山道が地区有志のご努力でこのたび整備されました。この城山について詳細は不明。古老伝として「速立神社」によれば**速立神社**は最古より座せるも山頂に城が築かれて以来、城の鎮守神として座せり。神社は3合目辺りにあったと云われる。明治5年合祀。

永祿の頃、上山城に**上山兵庫**あり。上山城からこの城山は眼下に見渡せる。城山は熊谷・神代から三沢・阿井等に通ずる要路であった。この山に砦を構え、以て上山城の要塞となせりし事明らか成り．．とある。永祿年間には尼子・毛利の戦いが激しい時代です。両軍の武将がこの地を往来したことでしょう。ロマン溢れる城山にみん

なで登ってみましょう。

雲南市男女共同参画 都市宣言を制定

すべての男女の人権を尊重し（中略）あらゆる活動に對等に参画できる社会をつくりたい。「男女共同参画都市・気づいて築く雲南市」が宣言されました。前文に続いて1条から10条まで具体的な実践目標が掲げられています。また**ワーク・ライフ・バランス**、**エンパワーメント**など普段使われない横文字が入っているため※印で注釈がついています。

議会で修正案が提出されるなど議論されました。横文字を含めて皆で学習して都市宣言に相応しいまちづくりを実践していきましょう。11月30日に木次町チェリバホールで記念式典が行われます。

編集後記 今年には台風が異常発生です。伊豆大島では大きな被害が発生。県内でも益田市を中心に西部に大きな被害をもたらしました。お見舞いを申し上げます。近頃の局地的豪雨・台風は所を選びません。まず「命を守る」行動を。我が家だけは大丈夫。はもうありません。眞